

ICT を活用したグローバル人材育成の取り組み事例

A Case Study of the International Human Resource Development utilizing ICT

八名 和夫

法政大学理工学部 , 法政大学 IT 研究センター
法政大学情報メディア教育研究センター

あらまし: 法政大学は多くの海外協定校との国際交流、留学生の受け入れ等を積極的に進めており、本年度文科省のグローバル人材育成推進事業実施校にも採択された。また2002年度から2008年度まで文科省のオープンリサーチセンター整備事業の補助を得て国際遠隔授業等を推進しICTを活用したグローバル人材育成の取り組みを進めてきた。本報告では筆者が関係したICTを活用したグローバル人材育成の取り組み事例として、カリフォルニア大学デービス校との E-class と呼ぶ単位互換遠隔授業プログラム、付属校生を対象としたカリフォルニア IT 英語・IT研修、及び理工学部の短期SAプログラムについて紹介する。

キーワード: グローバル人材育成, ICT活用, ディスタンスラーニング, スタディーアブロード

はじめに

法政大学は24カ国101の大学と協定を締結しグローバルな学術研究・教育交流を積極的に推進している。さらに、多数の留学生を受け入れ(2012年5月現在、学部生239名、大学院生182名)、グローバル人材の育成に貢献している。また、2002年度から2008年度まで文科省のオープンリサーチ整備事業として、「インターネットを活用したボーダレス教育・研究システムデザイン」が採択され国際遠隔授業を実施、ICTを活用したグローバル人材育成を進めた。本報告では、筆者が深く関係した、オープンリサーチセンタープロジェクトのうちカリフォルニア州立大学デービス校との E-class と呼ぶ単位互換遠隔授業プログラム、付属校生を対象とした語学及び英語による ICT 研修プログラム、及び2010年度より実施している理工学部短期SAプログラムを取り上げ、ICT活用の立場から概観したい。

1. UC Davis との E-class プログラム

法政大学 IT 研究センターは2004年度後期よりカリフォルニア大学デービス校(UC Davis)と異文化に属する学生達に地理的な制約を越えてリアルタイムで講義を共有させ、インタラクティブな討論を通じて学習効果を高めることを目標としたE-class プログラムをスタートさせた。市ヶ谷IT研究センターの遠隔講義室と UC Davis の遠隔講義室を結び双方の教室で異なるバックグラウンドを持つ学生が受講する。法政大学側は海外からの交換留学生とTOEFL500点以上の英語力を持つ本学学生、UC Davis 側は Freshman Seminar と呼ばれる教養科目の受講者であり単位互換となっている。授業テーマは法政大学と UC Davis 側が交互に担当する。H323方式のビデオ会議システムと日立社製のスライド同期システムを用いて双方のクラスで教員の画像音声及びパワーポイントスライドを共有した。教材として動画をを用いる場合はNTSC信号に変換して教師画像と切り替えて遠隔サイトに配信した。プログラム開

始当初は安定な接続を確保するため接続速度は384Kbps としていたが最近では768Kbps で安定な接続が確保できる。

図1 E-class 授業風景 (法政側教室)

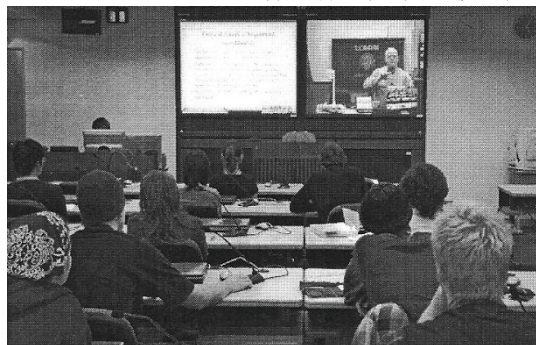


表1 法政大学-UC Davis e-Class プログラム科目例

科目名	担当者
Violence and Culture in the United States and Japan	Jay Mechling UC Davis
Japanese Thoughts I	Toshikazu Takao Hosei University
Youth Culture in the United States and Japan	Jay Mechling UC Davis
Introduction to Japanese Visual Pop-Culture	Reiko Tochigi Hosei University
Exploring Intersections of Japanese, American, and Latin American Culture	Pablo Otrtiz UC Davis
From Traditional Roots to Intercultural Ventures	Jon M. Brokering Hosei University

受講者アンケートの結果、映像・音声の質について、及び授業時間内におけるインタラクティブティについては82%が満足できると答えている。2005年度から Sakai 授業支援システムを導入し教材配布、電子レポートの回収を行っている。当初メーリングリストによるディスカッションを実施したがこれについては満足していない学生が多く今後改善が必要である。来年度よりポータルシステムを導入を検

討している。全般的に、本プログラムについて満足したかという質問については86%以上の学生が肯定的に答えており、89%の学生がこのようなプログラムを将来的に継続すべきであると答えている。学生たちに異文化体験の機会を与えること以上に今後両校の教育プログラムを補間しあうような特色のある教育プログラムの開発を試みたいと考えている。

2. 付属校生対象の英語 ICT 研修

カリフォルニア英語・IT 研修 (EICT 研修) は 2004 年度より英語と ICT に強い付属高生を育てることを目標に三付属校、IT 研究センター、アメリカ研究所の共同事業(本年度から三付属校と情報メディア教育研究センター)として実施している。本プログラムもオープンリサーチセンター整備事業の一研究テーマとしてスタートした。英語 OS ノート PC の貸与、カリフォルニア州ミルズ高校とのビデオ会議、電子メール交換等日常的に英語と IT を使う環境を与えることにより ICT リテラシーと英語運用能力を同時に飛躍的に高めることを目指している。2 月から事前研修及び現地提携校であるミルズ高校で日本語を学ぶ学生とビデオ会議による交流を行う。6 月にはミルズ高校生を日本に迎えホームステイプログラムを実施。7 月中旬から 3 週間の日程で、カリフォルニア州立大学イーストベイ校において現地研修を行う。現地研修では通常の ESL 授業に加えて事前研修で学んだ ICT (コンピュータハードウェア及びネットワーク技術) を英語で学ぶ。生徒たちにとって新鮮な密度の高い英語体験によって、異文化に対する興味喚起、英語習得に関する強い動機づけが得られている。国際文化学部浅川教授の協力を得て心理学的なアンケート調査、経験サンプル法による分析を行い本プログラムに参加した学生の英語力が向上するのみならず、自己の能力に対する自信、自尊の気持ちは高まることが示唆された

3. 理工学部短期 SA プログラム

社会のグローバル化が進む中で大学教育において専攻分野によらずコミュニケーションの手段としての英語力習得の重要性が増している。法政大学理工学部、生命科学部では共通した英語教育を行っているが英語クラスの能力別編成、少人数教育の実践を通じて学生の英語力向上を図り一定の成果を上げつつある。2010 年度より短期 SA プログラムをスタートさせることにより学生の英語によるコミュニケーション能力をさらに向上させるとともに英語習得に対する強い動機づけを行っている。

ESL 集中授業を通じてコミュニケーション能力を高めるとともに週一回、理工学部生を対象とした特別クラスを設け、参加者個々に理工学分野のテーマ(環境問題調査、現代社会における科学技術の役割等)を設定し英語のプレゼンテーションの指導を実施する。またホームステイにおける英語運用により実践

的な英語を身につけさせる。3 年生以上については少人数ゼミ教育で身に付けた専門知識を英語で表現し、討論する能力の涵養を目指している。これはグローバルな場で活躍する人材として必須の能力である。本年度から卒業間際の春休み期間中に新たな SA プログラム実施を計画しているが、そこでは 4 年生に対して、すでにまとめた卒業論文を英語で要約し、口頭発表、討論できる能力をつけさせるワークショップを実施する計画である。今後大学院との連携を視野に入れたグローバル人材育成に向けたとりくみに発展させたい。

表 2 プレゼンテーションテーマの例

On Optical Fibers: Physical Bases for High Speed Communication
Various Ways of Generating Electricity
Introduction to Behavioral Economics
Neural Networks: A New Paradigm of Information Processing
Climate: Where is the Most Comfortable Place?
Frequency Selective Surface: A Key for Modern Antenna Design
Could Sudden Cardiac Death be Preventable?
Noise Reduction by Median Filter

昨年度より本プログラムのポートフォリオシステムを立ち上げ運用している。blog 風のプログラム実施記録を蓄積するとともに参加者が継続して啓発し合い、教育効果を高めるシステムとしてゆきたい。

おわりに

法政大学における様々なグローバル人材育成の取り組みのうち ICT を活用した事例のいくつかを紹介した。ICT の活用は、国際化社会において有為な人材を育てるという目的実現に対して不可欠であるといえよう。近年コミュニケーションのツールを提供するインターネットアプリケーション技術の発展はめざましい。これまでの経験を活かしつつこれらの新しい技術をいかに取り込んでグローバル人材を育成してゆくか。今後の大きな課題である。

参考文献

- (1) Kazuo Yana, Mark E. Field, Elizabeth Greenwood, Nicole Ranganath, Pabro Otis, "A Real Time Class Exchange Program over the Pacific," *Proc. APRU 9th distance Learning and the Internet conference*, pp. 95-98, 2008.
- (2) Billy Pham, Kazuo Yana, and Hisato Kobayashi, "A Real-Time Interactive Distance Education System for a Broadband Internet Environment," *Proc. the Ninth International Conference on Distributed Multimedia Systems*, pp. 226-232, 2003.
- (3) Kiyoshi Asakawa and Kazuo Yana, "Applying Flow Theory to the Evaluation of the Quality of Experience in a Summer School Program Involving E-interaction," *Proc. International Workshop on Distance Education Technology DET2009*, 2009.